

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090700010		
法人名	株式会社ケアネット		
事業所名	ケアネットグループホームすざか		
所在地	長野県須坂市大字小山字蒔田2518-1		
自己評価作成日	平成22年9月3日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた環境の中にあり、事業所の「The Carenet Way(行動の目標)」に「その人らしく、その人らしい、その人らしさを支えるケアであること」、「明るく元気にコミュニケーションをはかること」、「地域社会との共存をはかること」を目指すことを理念として掲げて、入居者が「生き生きと楽しく、明るく、笑いのたえない、共に助け合い暮らす」ことを支援します。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090700010&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には地域名産のりんごや桃園が広がり、豊かな香りから季節感が味わえる環境にホームは設置されている。管理者は長年の福祉業務経験を活かし、併設のショートステイと連携を図りつつ、事業目的と明確な運営方針にそって質の高いケアサービスの提供に職員と共に真摯に当たられている。職員は交代で専門研修や他ホームへの訪問研修を受けられ良質なサービス水準の確保に意欲を持たれている。「……その人らしさを支えるケアであること、明るく元気にコミュニケーションをはかること」の実践に取組まれ、入居者と職員の会話がごく自然に保たれ、接遇についても常に気配りをされている様子が伺えた。入居者が住み慣れた地で地域に溶け込み安心して暮らし続けられるよう地域との連携に向けた取り組みに期待する。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスマネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年9月17日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げている。全職員が理念を共有する取り組みが弱い。	入居者への介護の基本姿勢、職員の在り方、地域との繋がりを謳いあげた、母体法人の理念が掲げられている。	今後更に、法人全体の理念を基盤にしつつ、ホーム独自の理念(日々の方針や目標を具体化した内容のもの)を作りあげ、職員全体に浸透されるよう期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	伝統行事(子供みこし)を招いたり、地域の文化祭に参加している。しかし、まだ自治会の一員としての活動はしていない。	日常的に行われている散歩の折に、地域とふれ合いを持つと共に、地域の行事(文化祭に入居者の作品を展示して頂く等)に参加したり、ホームへ蕎麦うちボランティアや子供みこしを招くなど地域の人々との関わりに努められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、高校の体験学習の場として、受け入れ態勢は整えている。しかし、地域向けの認知症の勉強会等ははまだ企画できていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をし、グループホームの取り組み等を理解いただいている。委員からの意見を参考にサービス向上に反映させている。	2ヶ月に1回の頻度で開催し、ご家族、地区代表、行政代表等、幅広い立場の方々が参加し、事業所からの報告と共に、参加者からの意見、要望、質問が出され双方向的な会議となっている。しかし時には議題に苦慮される旨を伺った。	入居者の高齢化と身体状況の低下傾向にあることを伺った。災害時に入居者を安全に避難していただくためには職員のみでの対応には限度があり、地域住民の具体的な支援体制が得られるよう検討されることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的には、認定更新時の訪問調査の日程を調整する等のみであり、サービス向上に向けた取り組みは継続的に行われていない。	運営推進会議に行政代表者が出席された折に入居者の暮らしぶりを見ていただくと共に、意見交換がされている。なおホーム入居者に欠員があった折には、行政担当者に相談をして情報提供を得る取り組みが行われている。	

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない状態となった場合は、ご家族の同意を得て、必要最小限の身体拘束を行っている。	職員は常に入居者の安全を確保しつつ、自由な暮らしに向けた支援に努められている。しかし入居者の心身の状況や身体状況を考慮された折に、やむを得ずご家族の同意を得て一時的な拘束が行われたことを伺った。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について話し合い、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な取り組みは行っていないが、研修等により、全職員に周知していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の方に事前に見学や入居者との交流をし、安心いただくようにしている。なお、契約に際しては、契約内容の確認とご家族の意向や希望を聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中から意見、要望を汲み取るように心がけている。上手く言葉での表現のできない入居者も日頃の態度、表情等から汲み取るようにしている。その情報についてはケア会議にて共有し、改善に努めている。	日常的な寄り添いのケアの中より入居者の意見や思いを汲み取ると共に、ご家族面会時(ご家族の面会頻度は月8割と伺った)や運営推進会議・家族会への出席時に状況説明をして、ご家族よりの意見や要望を伺い、職員間で話し合いサービスに反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員ケア会議を実施し、意見や提案をサービス向上に役立っている。	高齢化に伴い身体状況の変化に向き合い、職員全員で話し合わせ情報を共有して、サービスの質の確保に努められている。	

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回「職員・ケア会議」を開き、運営についての説明を行い、職員の意見を聞き、皆の総意の基にホームづくりを目指している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、年1回の研修参加を目標としている。事業所としては、年2回の職員研修を実施している。また、職員個人の外部研修希望については、内容を検討し、希望に添えるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの情報交換や訪問を不定期に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みの段階より、本人の状況を聞き、見学してもらうようにしている。本人の不安混乱を想定し、慣れていただくよう配慮し、本人の気持ちを大切にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聴き、入居に至るまでの家族の困りごと、心配ごと、求めている事と本人とのギャップを把握しながら、信頼関係づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期段階から全て入居申込みとして受けるのではなく、「今、何が必要か」を相談の中で確認しながら「今、必要なサービス」につなげるようにしている。		

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の経験や知識が活かせるように、日常生活の中で、教えてもらう場面を多くもてるようにしている。共に過ごす時には、支援する側、される側という意識を持たず、和める場面づくりをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	19人の様子を折々に報告し、職員の思いを伝え、共に支えていく気持ちを共感できるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰る。墓参り、親戚を尋ねるなどは家族に委ねている。馴染みの人の面会等は時折あるが、此方から出かけていく支援はまだ行っていない。	ホームでは入居者の生活暦や日常のケアの中より得られた情報を基に、電話や手紙を活用して入居者の思いの実現に努められている。なおご家族との情報交換により、ご家族の暖かい支援を受け、外泊・墓参り・親戚訪問等が行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係はこちらが作為的に築くものではないので、個々の相性による場面が多いので、職員は人間関係を把握していることが大事と考えている。お茶、食事は職員が話題を提供し、場が和めるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入所された方がいるが、特に家族等からの相談は今のところ無いが、家族からの相談があれば大切に考えて行きたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から把握できるように努めている。意思表示の困難な人には、家族からの情報を得るようにしている。一人ひとりの想いを大切に、カンファレンスで検討し、反映されている。	日常的な寄り添いのケアの中(ソファで寛いでいるときなど)より思いや、意向の把握に努めご家族に情報を提供し、ご家族により温泉願望が達成された経緯もある。今後ホームでも温泉入浴に向けた支援に取組まれて行かれる旨を伺った。	

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での情報収集が不足しており、生活歴の把握は断片的なものになってしまっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や生活のリズムを把握しながらのケアに心がけ、一日の流れを本人の姿や言葉を通して、記録を取る様に心がける。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心になり、アセスメントをし、職員全員でカンファレンスを行い、計画作成担当者がケアプランを作成している。できるだけ本人や家族の思い、意見を反映させるようにしている。	入居者やご家族の思いや意向を伺い、居室担当者が中心となりアセスメントをして、職員全員で話し合い、計画作成担当者がセンター方式を活用して介護計画書を作成されている。その際評価の記録確認ができなかった。	高齢化に伴い入居者・ご家族の状況に変化が見られ、現状と計画がかみ合わない状況が出てくるものと思われる。今後3ヶ月に1回の見直しと現状に即した介護計画の作成が望まれる。なお計画作成に当たり、モニタリングをして記録に残される事が望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録、バイタル、食事・服薬・排泄等の記録をしている。情報の共有、確認をし、勤務につくようにし、確認サインをするようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族のケースや救急受診時等は事業所に対応している。ケースごとに柔軟な対応を行うことができるよう体制や工夫を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花見外出、季節行事(やしょうまづくり)の際、民生委員やボランティアの協力を得ていきたい。		

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続を勧め、受診は基本的には家族の付き添いで対応してもらっている。家族が不可能なときは、職員が代行し行っている。なお、かかりつけ医のないひとには、当事業所の協力医を紹介している。	入居者のかかりつけ医での受診支援が行われている。受診にあたり基本的には、ご家族対応となっており、その折にホームより入居者の日頃の身体状況の情報提供が行われ、結果の報告が得られている。なおご家族が都合がつかない場合は、職員が代行をされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置をしていないが、隣接するショートステイの看護師に相談し、助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、病院関係者(地域医療連携室)と情報交換をし、退院後の生活がスムーズに再開できるよう援助を行った。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、対象となる入居者はおらず、話し合いや方針は立てられていない。	現在ホームとしては重度化や終末期に対応しうる力量や体制が整っていない。しかし今後入居者・ご家族の意向を伺いながら、ホームで対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針などを職員全員で話し合っていける旨を伺った。	入居者の身体状況を早期にキャッチして、早い時点から話し合い、重度化や終末期の対応に向けて、看取りの方針や意思確認書(同意書)の作成が望まれる。なお看取りのための職員教育に努められ入居者・ご家族の安心と納得した最期を迎えられるよう期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救急救命講習を受講した。また併せてAEDの使用法の講習も行った。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体の避難訓練を入居者も一緒に実施している	施設全体で年2回の避難訓練が行われており避難時間に7分かかった事を伺った。(内1回は通報訓練がおこなわれている。)	入居者の状態を考慮した時に、夜勤者1人で9名の避難誘導には限界がある。消防署や近隣の消防団等の協力を頂きながら夜間想定避難訓練を行い、得られた課題を基に話し合い、より安全な避難誘導ができるよう期待する。

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシー保護について、常に意識し、個人情報の取り扱いについて教育をおこなっている。	職員一人ひとりが入居者に対して真摯な態度で接しており、日常的に入居者の立場に立った見方や考え方をされている事が会話の中より伺えた。また入居者より学ぶことの多いことをお聞きした。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に「聴く」ことを大切に考えている。上手く表現できない人には、選択してもらえるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、生活の支援をしていくよう配慮している。職員の都合を優先せず、入居者の生活を優先できるケアを目指すよう心がけている。その日の天候を見ながらの散歩、屋内でのレクリエーションで楽しみをみつけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの選択は基本的に本人の意向で決めている。選択困難な場合は、職員が見守りや必要に応じた支援を行っている。現在、訪問理容を利用している。美容院の利用も本人の意志を取り入れるようにしていきたい。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つで、メニューを考えること、準備すること、食卓を囲むこと、片付けに参加すること等において、喜びや楽しみを持ってもらっている。	入居者より「一日の中でお食事が一番楽しみ」と伺った。メニューを一緒に考え買い物から食材の下ごしらえや食事の準備などを行い、職員と共にテーブルを囲み季節の漬物やおはぎ作りなどに会話が弾んでいた。片付けも元気な方が思いやりを持って行っている姿が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、栄養の偏りやカロリー過多がないか管理栄養士に指導を受けている。なお、食事の他お茶の時間を取り、水分摂取に心掛けている。		

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清潔は三食事ごとに行っている。義歯も洗浄液につけるなどして、全員の口腔状態を把握しての支援が来ている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の居室にトイレが設置してあり、一人ひとりのプライバシーが守られ、各自の排泄パターンに併せて行われている。トイレ誘導、パット交換のタイミングを逃がさないようにケアカンファレンスし、援助を行っている。	入居者の排泄時間を記録してタイミングを判断し、自立した排泄支援に努められている。なおりハビリパンツやパット使用者については就寝前に確認し、安心して眠りにつかれている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による心身の変化を理解し、排泄状況を把握し、スムーズな排便のための援助を行っている。また、食事、運動等にも配慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決められている。ハード面から事故防止を考慮し、日中の入浴としている。身体面、精神面に入浴に困難を抱えている人には時間を掛けて納得してもらったり、二人介助で安心して安全に入浴できるよう援助を行っている。	一日置きに入浴支援が行われ、広い浴室・浴槽が設置されており、一回に2人ずつ入浴を楽しまれている。入浴困難な入居者には2人の職員が対応し、安心と安全なケアに努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつかみ、日中の活動を促し、夜間の安眠に結びつくようにしている。各自の身体状況に合わせた休息を勧めている。不安があり、眠れないときは、寄り添い、話を聴いたり、お茶を飲んだりし、安眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、「服薬説明書」を管理し、全職員がわかるようにして、薬の目的、副作用用法、容量を理解し、確実な服用に努めている。病状の変化には記録、報告を行っている。		

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、楽しみごとを把握し、役割や楽しみごととなり、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう準備し、感謝の言葉を添えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況やその日の天候を見ながら散歩、外出を行っている。ホームの庭や隣接グラウンドへの散歩は日常的に行っている。	日常的な散歩やお弁当(入居者が握ったおにぎり等)を持っての外出(中野バラ園・須坂人形博物館等)支援が行われている。ドライブを兼ねた外食・食材の買い出し等外出機会を多く取り入れ、気分転換に配慮されている。なおご家族の協力を得て、お墓参りや親戚訪問が実現されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の現金は家族の承知のもと自己管理している。外出の際はお金を使う機会を設けているが、実際には使うことをためらっていることが多い。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話をかける機会はほとんどなく、家族や知人からの電話は歓迎している。季節の手紙は本人の意思を尊重し、無理強いせず、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、テラスに向かい、開放的である。庭の畑では季節折々の野菜、花を育て楽しんでいる。ソファーやリクライニングチェアは語り合える場として利用されている。	日本家屋の様な木の温もりが感じられる広々としたリビング・ダイニングには、ソファーやリクライニングチェアが置かれ、職員に寄り添われながらゆったりと語らい談笑されている。また庭先の菜園には様々な野菜や草花が植えられ、収穫して食することを楽しみにされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にあるソファーやリクライニングチェアは思い思いに人と語り合える場として利用されている。テラスのベンチではお茶や日向ぼっこをしたりして過ごす楽しみがある。		

外部評価結果(ケアネットグループホームすざか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具を持ち込み、備え付けの家具も使用される方が多い。家具、ベッドは好みに配置し、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	ホームで用意された調度品(ベット・テレビ・チェスト等)を思い思いに使用されると共に、馴染みの家具や位牌・遺影、孫の絵を飾るなど思い出深い品を持ち込み心の安らぎと居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーとなっており、随所に手すりが設けてある。トイレは各居室に設置しており、安全に自立した生活が支援できるようにしてある。		